

Manual ■ 平行オルガヌム

オルガヌムとは、中世ヨーロッパで流行した初期多声音楽です。初期のオルガヌムはグレゴリア聖歌等の旋律に完全4度、完全5度、完全8度の純正律で平行して歌われる平行オルガヌムでしたが（本来即興で歌われていたと言われている）、やがて、複雑な進行をする自由オルガヌムに発展していきます。自由オルガヌムでは、反行、斜行、声部の交差などもみられます。そしてその後、オルガヌムはより複雑な対位法音楽へと発展していきます。

今回取り上げる平行オルガヌムは、オルガヌムの歴史の中でも最も初期のものです。2音間の音の幅を一定に保ちながら、音高を動かしていくことで、合唱活動に必要な能力である音程感覚を養うことができると考えられます。まずは、平行オルガヌムで基礎的な練習をしてから、様々な要素の入ったオルガヌム（オリジナル教材）を歌ってみてください。

☞用語の解説は、楽典・音楽用語のページを参照してください

完全5度
エチュード 1

完全5度
エチュード 2

*映像ではレとラの完全5度で演奏しています。（ナレーションでは移動ドで解説しています。）

Step 1

音を合わせる

【音を合わせる】

- ・音を重ねた時に生まれる2音の間隔を意識する。
- ・音を少しのぼして、完全5度の響きが安定するように聴き合って歌う。

Step 2

合わせた音を動かす

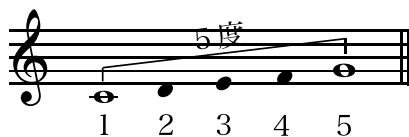
【合わせた音を動かす】

- ・2音の間隔を正確に平行して動かすように意識する。
- ・上行して次の音に移るときは、ピッチが低くなりがちなので注意して歌う。

- ★ 半音ずつ音を上げて練習しましょう
- ★ 完全4度、長3度など、2音の間隔を変えて練習しましょう
- ★ 上行して下行するなど、違ったオルガヌムを創作して練習しましょう

楽典

■ 音程 2つの音高のへだたり(距離)を音程といい、数字と度であらわします。



同じ度数でも、2つの音に含まれる半音の数によって響きは異なり、それぞれ長・短・完全・増・減と呼ばれる種類に分けられます。

完全1度			
短2度		長2度	
短3度		長3度	
完全4度		増4度	
減5度		完全5度	
短6度		長6度	
短7度		長7度	
完全8度			

音程を構成する 2 つの音が、よく調和して響くものを「協和音程」といい、濁った響きに聞こえる音程を「不協和音程」といいます。また、「協和音程」は調和の度合いによって、さらに「完全協和音程」と「不完全協和音程」に分けられます。

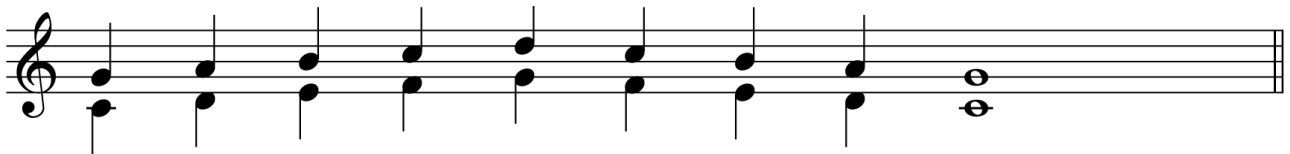
【協和音程】 … [完全協和音程] 完全 1, 4, 5, 8 度 / [不完全協和音程] 長短 3, 6 度
【不協和音程】 … 長短 2, 7 度、増 4 度、減 5 度

■ 平行と反行

平行

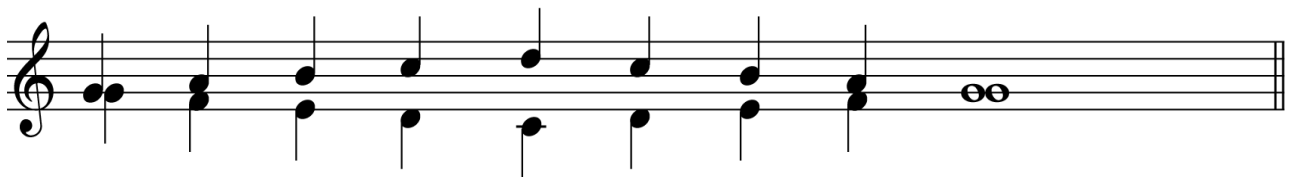
2 つの声部がたがいに同じ方向に動くことをいいます。

また、常に同じ音程間隔を保ちながら進行する場合も平行といい、以下のように常に 5 度音程で進行することを平行 5 度、あるいは連続 5 度といいます。



反行

2 つの声部がたがいに反対の方向に動くことをいいます。



音楽用語

- ユニゾン： 同度の音、あるいは同度の旋律を1声部あるいは数声部と一緒に演奏すること。しかし、女声と男声のように実音がオクターヴ離れているような場合にもいう。合唱の練習ではこの同度の練習は基礎的に大切である。より正確な同度の音高を必要とするのはもちろん、各音の音色の統一がなければ、人声の美しい和声は得られない。
- カノン： 厳格な模倣様式による多声楽曲の形式および技法。ある1声部の旋律を他の声部が忠実に模倣し、共に進行していくもの。2声カノン、3声カノンや2重カノン、同度カノン、2度カノン・・・など、声部の数や音程関係など様々な見地から分類されている。
- ピッチ： 音高（音の高さ）
- オスティナート： ある一定の音型を、楽曲全体を通じて、あるいはまとまった楽節全体を通じて、同一声部で、同一音高で、たえずくり返すことをいう。オスティナートは、しばしばバスにあらわれ、それはとくに〈basso ostinato〉〈ground〉と呼ばれる。しかし他の声部に現れることもある。
- オブリガート： 助奏。とくに、ひとつの歌声と協奏する声部のことであり、独唱（奏）に加えて演奏される伴奏以外のパートを指す。もとは、楽曲に不可欠で省略できない声部のことであり、アド・リビトゥム（ad lib.）の対語である。
- 不協和音程： 2音が協和しない音程。振動数比が複雑で、同時に鳴ると濁った響きを生む。
- トーンクラスター： 2度以内の音程で密集した音の塊のこと。調的な機能を持っていない点で、和音とは区別される。20世紀後半におけるもっとも重要な技法のひとつ。
- オルガナム： 9世紀から13世紀のヨーロッパで行われた合唱の技法であり、初期の多声楽曲のこと。ひとつの旋律に対し、常に4度・5度音程をなす声部を加えて歌うもの。初期は2声の合唱であったが、発展するにつれて声部も増え、1度・4度・5度・8度の完全音程を中心に、3度・6度なども使用された。平行オルガナム、反行オルガナム、自由オルガナムなどがある。

[出典]

- ・目黒惇編(1983)『新訂合唱事典』音楽之友社
- ・浅香淳編(1991)『新訂標準音楽辞典』音楽之友社
- ・柴田南雄、遠山一行総監修(1996)『ニューグローブ世界音楽大事典』講談社
- ・金澤正剛監修(2004)『新編音楽小辞典』音楽之友社
- ・小西友七、南出康世編集主幹(2006)『ジーニアス英和辞典』第4版 大修館書店

参考文献

- ・フォライ・カタリン，セーニ・エルジェーベト共著(1975)『コダーイ・システムとは何か』
羽仁協子，谷本一之，中川弘一郎共訳 全音楽譜出版社
- ・カルドシュ・パール(1994)『合唱の育成・合唱の響き』
羽仁協子監修，菅原恵利訳 全音楽譜出版社